

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年3月26日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104365
法人名	有限会社 ベストケアライフ
事業所名	グループホーム かわかみ
所在地	鹿児島県鹿児島市川上町1854番地1 (電話) 099-243-7735
自己評価作成日	令和3年2月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年3月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍でいかに不自由な中でも職員が生き生きとし、一人一人の考えが意欲的で笑顔溢れる職場であるよう努めている。入居者一人一人の想いを汲むためにも生活歴や家族との関わりを熟知し、人間らしく平穏に暮らしていただけるような工夫(身体的な変化に添う声掛け・支援をはじめ、五感を刺激するように衣食住の環境整備)をトップダウン型でなく、皆で考えメリットデメリット両方面を視野に入れて話し合い、支援の方針決めをしている。共同生活の場である為、限定的な偏りの支援にならないよう全体的な流れを意識しながら、個々を尊重し一方的に介護者がして差し上げるだけでなく協働する事を基本に考えている。それには声掛けをして、入居者の表情を確認し、選択肢を与えてから支援の開始となるよう留意している。外出・面会制限下であるが、感染予防を徹底し、フェイスシールド・ゴーグルを装着した上で密接な接触をしている。安易に家族との面会が叶わない現況である中で、入居者の状況・医療的見解も含め、積極的に協力医療機関へ事項報告・指示を仰ぎ、家族と頻回に互い報告・相談をした上で支援計画も行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所の理念を職員全員で共有し、利用者に寄り添い、1日が元気に過ごせるようにケア支援している。
- ・コロナ禍にあり、面会制限の中、利用者の健康や生活面の情報を「かわかみ便り」と写真を添付し報告することで、家族と情報共有に務めている。
- ・管理者は感染予防対策について職員への指導を徹底し、日々の関わりに活かせるようにしている。
- ・職員間の連携もよく、問題発生時は解決に向けて全職員で行動している。
- ・年2回の災害訓練を行っている。1回は分遣隊から来て避難誘導の指示や点検箇所、声かけの仕方、消防器具の取り扱いを指導して貰っている。もう1回は自主訓練を行っている。一時避難は中庭にして、居室から直接外に出れるようになっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	安全と安心のある暮らしを社会の一員として入居者が過ごしていけるように閉鎖的な生活にならないよう意識している。	理念は玄関や事務所に掲示し、毎朝のミーティングで気づきや確認事項を共有し、毎月の職員会議で理念に基づくケアの振り返りをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍での縮小した制限下での支援が継続している為、外部との接触は極力避けている。代表者による季節の挨拶や情勢を入手する上で出向き相互的立場の確認は取れている。	町内会に加入し、総会は代表者が参加し施設紹介を行ったり情報収集もしている。コロナ感染防止の為、地域行事は自粛し、散歩時の挨拶や旬の野菜の差し入れを頂いたりしての交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	今年度においては発信する場・機会がないがこれまで地域回覧板などを通して勉強会や当事業所のサービスを受ける有無に関わらず相談窓口としての受け入れ門戸を開いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	内部開催にて今年度は行っている。面会制限をするに至った点、制限下での支援内容、決定事項だけを知らせるのではなく、取り組み状況も議事録を起しし定期便に載せて報告している。その時期に合ったサービス向上に向けての意見交換の様子も知らせるようにしている。	運営推進会議は、内部開催の形式でしている。入居者や事業所の状況・行事報告・活動内容を写真を添えて送付している。意見を貰って、家族に入居者の状況報告の方法や職員への感染予防対策の取り組みを話し合いサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村からのメールなどでの通達をスタッフ全体にも周知。また、事業所の現況として困難事例など、実際福祉事務所、市役所管轄部署等に足を運び顔を出し助言を貰う等活用させてもらっている。	市担当者とは窓口に出向き、書類提出や困難事例など助言を貰ったり、電話で相談するなど日頃から協力関係にある。介護相談員も年1回受け入れ、福祉担当者とは情報の共有をする等、連携、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をする必要性、理由をしっかりと理解させる。拘束がどういったものか具体的な事例を勉強会などで学ばせ入居者毎に拘束をしない方法の事例検討を出し合っている。入居者の抑制無しでの自由な行動とはどうあるべきか都度問題提起するようミーティングで頻回に啓発している。	身体拘束委員会で年2回マニュアルを基に勉強会をしている。毎月の職員会議で事例検討・言葉の拘束を含む資料を提示し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日々のミーティングでも声掛けについて学習している。コロナ感染防止の為、日中の施錠はしている。中庭で見守りや一緒に散歩する等の支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がどういったものか、どのような種類に分類されるのか定期的に勉強するよう努めている。心理的（スタッフによるスピーチロック等がないか）要素の有無を特に留意し気になる声掛け等は出来るだけその都度考えさせるようにしている。また、入浴・排泄支援時には様々な職員によって身体チェックも欠かさず行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	昨年度は包括センターの協力で資料を共に勉強会を行い家族参加型で機会を得た。しかし事例毎に難度も異なる為、事例相談がある場合は安易に判断せず協力医療機関や行政にも相談・助力を貰う等情報交流に努めている。現在では入居相談段階で話題に出る事がある。		
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学に来られた段階から、グループホームの特性から説明し具体例を盛り込み、専門的な内容を避け、理解に繋げるよう工夫している。具体的な事例での情報提供によりスムーズに納得されるように見受ける。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今年度は直接的に話をする機会が少なかったが一時的面会制限解除の期間を設けたり、電話・書面でサービス内容の周知をより徹底し支援内容の要望・確認を聞き取るよう努め反映させられるようスタッフとの意見交換を重ねている。	利用者がゆっくりくつろいでいるときに世間話等から、意見や要望を聞き、家族からは面会時に窓口や電話で話している。毎月の便りで健康や生活面を報告し、暮らしぶりの写真を同封している。出された意見を取り入れ、一緒に掃除をしたり、利用者の趣味を活かしたレクリエーションを取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	サービス内容の変更がある場合、より改善強化を図りたい事項がある場合、また人間的に手が足りず支援に困っていないか、ヒヤリハット等で多発している事項等多岐にわたる項目の視野を拡げ職員が不便を感じていないか聞き取りを前提とし業務分担の見直しを行うようにしている。	管理者は話しやすい環境作りに心がけている。毎月の職員会議や必要時、日々の関わり等で意見や提案を聞き、代表者にも相談している。業務の改善やケア方法の改善で職員の負担軽減に努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	同じ職場で就業姿勢や意欲、私生活での困りごとなど相談を含め個々の考え方を理解しつつ、年齢を考慮し就業環境の偏りがなるべく生じないように確認をまめに行っている。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修は実質キャンセルが多く実情困難だった為訪問看護師等に相談し基本的に知識として知るべき病気、対処法など勉強会を行ったり移乗1つにしても様々なスタッフ間でも力量・経験不足差が出る。学びたい項目等も日常的にミーティングで意見を聞きながら夫々がステップアップを図り気持ちよく就業できる為の取り組みをしている。管理者のストレス軽減の為の話し合いの時間を設け考えの相違の折り合いをつける等緩和に注視している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍である為、実際会う機会は限定的であったが、情報提供においては知りたい点、対応の仕方等感染者を出さない為の工夫における意見等直接的に電話等で話し合う等取り組んできた。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前相談の段階からの聞き取りを家族・本人へ行い、利用の医療機関との情報交換を交え、支援を受けたい事項の吸い上げをし、グループホームででき得る範囲をお知らせしつつも垣根を感じずなんでも相談していただけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	料金、医療との繋がり、本人の性格上の共同生活が可能かなど各家庭によって不安要素は多岐にわたる為、電話・面会或いは書面での報告内容に載せて要件の確認に触れ相手の意見を聴衆しやすい環境を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援の中でも衣食住で不安を感じないようにまず事前聴き取り情報を元に見極め、不穏になる要素を探りスタッフ間で住環境・対人環境を同時に整えていくよう見守りから支援の骨子を細かく作り上げる。また、入居前情報と大きく異なった状況確認が出来た場合は支援内容の見直しに大きく関わる為都度連絡をし家族へ状況報告するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の趣味、嗜好を探りながら出来る事が何か、どこまで支援が必要かをアセスメントシート等活用し情報収集を行い、本人の考え・意見・行動を記録に留め声掛けの仕方・タイミングを統一できるようにし信頼を置いていただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>現状コロナ禍にあり家族との接触など面会制限下にある為、関係性の強化は図り難い点が多々あるが電話・手紙・写真等映像を収め本人の様子をより細かく情報を盛り込み知らせ協働していただきたい事項確認を怠らず認識を深めていただけるよう努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外部者との接触が出来ない状況下である為、訪問を受けたり出向いたり叶わないが事業所側からの定期的な知らせとして元気な様子・身体の変化など報告をし、情報共有に努めている。</p>	<p>コロナ感染防止の為、外出や面会の自粛を行い、電話や手紙の取次ぎ支援をしている。家族には定期的に利用者の状況を写真で添付し健康状態を報告している。玄関での面会を行い、関係性が途切れないよう支援に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>互いの相性、性格を鑑み食堂での着席位置、寛ぐソファでの仲違いが起きないように情報収集し、コロナ禍である為、アクリル板等を取り入れ互いに距離を置いての位置づけに不穏がないか見極めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院してきた医療機関等、本人・並びに家族との信頼による関係性が継続している方も少なくない。現況としての取り組み・本人様の様子・入院当時のエピソード等から今に繋げる要素を汲み医療的見解の助言等貰う等している。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員各人が入居者と携わりながら生活歴・趣味嗜好・考え方から思いを汲むように努め、スタッフ間で頻回にミーティングを行っている。	日々の関わりの中でお茶の時間等、ゆっくりくつろいでいる時や入浴中・夜間の眠れない時・レクリエーション時に思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、態度・行動・表情等や生活歴・家族からの情報をもとに職員で話し合い、本人本位に関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りを基本に利用されたサービス所からの情報も踏まえた上で本人に聞ける場合は都度情報更新をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	医療面も加えて平穏な日常の支援が出来るよう、スタッフ間でアセスメントを繰り返し調整に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフが携わりながら課題の定期、本人へ聴き取りも加え、家族へ相談。状況によっては医療的見解も加味し再度スタッフに情報を下し課題の作成に繋げている。	本人や家族・職員・主治医の意見を基に担当者会議で方向性を決め、現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎に見直し、状況変化時はその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム日誌を共有情報の場として活用。詳細は個人記録へ記すが見やすく確認しやすいよう取り組む。現在は入居者の身体状態変化が目まぐるしい為情報量が多く、スタッフも情報更新の把握に苦慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	困っている事情など契約時の聞き取りで確認し、追々生じる事項など家族からの相談を受け、行政や医療機関などに打診し情報を共有しながら運営サービス内容に当てはまらなくとも支援の声掛けに努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍で外部との接触が叶わずボランティア等の受け入れもストップしている。本人方もこの状況では外出困難であるので交流が出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、並びに家族の希望に沿う権り付け医を継続していただく事を基本と捉える。また医療機関によっては訪問診療の受け入れをし状態変化に応じて密に連携が図り易くスタッフ間で課題が生じた内容において医師の指示を的確に受けられる為、スタッフ間は勿論家族への報告もしやすい。	本人・家族の希望を優先している。複数の協力医療機関から定期的に訪問診療を受け適切な医療が受けられるよう支援している。結果は家族に報告している。救急搬送の場合もある。専門外来受診は基本は家族同伴である。口腔ケアにも力を入れている。24時間対応で適切な医療ができるように連携を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療日等に合わせて要所で身体の気づき、確認事項を集約し看護師への報告、支援の内容の見直し検討等の助言、医師への的確な判断を求めてもらい早期に変化に対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より家族の思いの汲み取りから主治医と連携を図り、状態の報告をまめに行い支援の助言、気づきの注目点など指導を貰い、ケアに活かしている。また入院時には相談員等と定期的に情報を取り退院後の支援実行の為の共有を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の見立てや本人の状態の変遷を常にスタッフ間で共有し家族に状況報告の上で支援の範囲（限界）、医療の必要性を都度説明を繰り返し行い重度化における同意を並行して得ながら見解の相違が無いよう工夫をしている。	マニュアルがあり契約時に説明し、同意書を貰っている。状態変化時に主治医から家族に説明している。医療必要時は医療機関へ転移することもある。看取り実績があり、居室に家族がゆっくりできる環境を整えて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の病歴、持病から考え得る危険予知における急変対応は不定期ながら事例検討を踏まえて行っている。実践力を付ける為の訓練などはコロナ禍である為、講師を呼ぶ等出来ていない為強化を図りたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な防災訓練は前提として入居者の入退居もある為、グループ分けした細分化した人数でその時の入居者の特性・身体状態を考え非常時の誘導の仕方、優先事項の確認を話し合う機会を都度作っている。入居者居室横廊下に防災頭巾等を日頃から下げたり、居室内避難経路を阻害する置物などの点検・漏電点検をし、地域住民へのアプローチを代表が定期的に口頭依頼を行っている。</p>	<p>年2回定期的に防災訓練を実施している。1回は分遣隊指導のもと地震想定訓練を、2回目も分遣隊立会で、夜間に火災発生を想定し初期消火・通報・避難誘導訓練を行っている。緊急通報装置もある。緊急連絡網は見直し中である。一時避難場所は中庭で、居室から直接庭に出れる。備蓄として米・水・乾麺・缶詰・インスタント物等がある。ガスコンロ・懐中電灯・防災頭巾は居室横に下げている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個々の特性を活かし自身で出来る事を、業務的優先で急がせることが無いよう心に留め急がせない、執拗な声掛けのない排泄支援を留意。個室では扉を閉め、意思疎通が困難な入居者においても必ず名前を呼び表情を見ながら支援に当たるようにしている。</p>	<p>マニュアルを基に、年1～2回必要時、接遇も含めて職員会議で研修を行っている。入室時はノックと声掛けを、トイレ誘導時はさりげなく声掛けを行いドアは閉めて対応している。名前は名字で呼ぶようにしている。洋服は利用者が選択できるように声掛けしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>生活歴・家族からの聞き取り情報を元に日常会話で本人の想いを拾い出来るだけ「したい」「出来る」気持ちを支援するために選択肢を与えるようにする。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>なるべく共同の時間（食事、レクリエーション）は参加していただくよう促しながら個々のペースを優先できるよう表情や体調を見ながら支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>全てを業務の一環にせず、自身の思考・嗜好から声掛け、更衣の選択肢の幅を持たせる等工夫、寝たきりの方に鏡を見せる等して様相を見ていただく等世俗との繋がりを忘れずにいて欲しいと思い意識している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	彩や季節感を意識し、形状・香りで食欲をそそるよう取り組んでいる。コロナ禍であるので準備や盛り付けなどは協働する事の遠慮をさせてもらっているが下膳やゴミ回収等自主的にして下さる方には参加していただいている。	宅配業者に食材を依頼し、メニュー作成担当者が利用者の嚥下機能や好みに応じて刻みやお粥・ミキサー食・代用食で対応している。行事食や誕生日には本人の好みのもの、正月には個別にお重に食べやすいものを詰めて提供し、食事を楽しめるよう支援している。下膳・台拭き・掃除など、職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配食材などを利用し、職員のみので献立作りでマンネリが無いよう和洋中様々な食材を使用できている。持病や身体状態を考慮、ミキサー食・超刻みなど対応し水分量も日常的な補水になるよう軟食を取り入れる等検討を重ねながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き声掛けを行い、見守りや一部介助など個々のレベルに添い口腔ケアを実施している。視界の協力も貰いながら口腔状態の衛生確保に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活かし、時間の間隔、量、状態の把握から個々に適切な支援の種類の見極めを行うようにしている。自立を望む方においては時間間隔の声掛け・見守り、失敗した際のフォローを行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握しトイレでの排泄支援をしている。声かけに工夫し個別に応じてトイレ誘導し排泄支援をしている。職員間の連携や利用者寄り添う事で、居室での便失禁が減少している。オムツから改善した利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活パターン（水分摂りたがらない、便秘がち、咀嚼に問題あり、排尿量が摂取量より上回る等）のアセスメントを頻回に行い、持病を含めて個々の状態に合わせてボカリ、白湯、麦茶、珈琲等緑茶だけに頼らずTP0に合わせて支援し、体操で下肢の運動を入念に行い腸動への働きかけの工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者の身体状況から医師の助言を含め、入浴可否の確認を行い本人の希望に添うよう支援。長湯の方で業務的に時間的な限りがある場合は本人に制限を掛けないよう入浴日の曜日変更の検討を行い本人の意思を優先し楽しみな時間の確保の一役を得ている。	基本的に週3回の入浴支援であるが個別にシャワー浴もあり、希望や個別に応じている。同性介助を行っている。拒否がある場合、声掛けの工夫や職員の交代・時間を調整し、無理強いはいしない。清拭や冬場は足浴支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体のリラックスを鑑み夜間だけの臥床を促すだけでなく、本人の希望を基本、ホールでソファにて寛ぎ居眠りされる方には毛布やひざ掛け等掛け自然体でおられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示は業務日誌、個人記録への記載を基本にミーティングでの周知を図る。特に皮膚の軟膏系の処方では利用者同士間違いが無いよう脱衣所等でもメモ書きを掲示。個々の状態から服薬の意義を学び副作用で起こり得る状況を把握させ、そうならない工夫を勉強会等不定期ながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、将棋、新聞購読等話個々の嗜好から新しい情報提供をしたり、性格別に几帳面な方（塗り絵・貼り絵）飽きっぽい方（文字合わせ・体操）への声掛け・提供の準備をしている。四字熟語カルタ等こぞって楽しめる遊戯の1つである。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍である為、本人（家族）の希望の外出・外出は不可であるが必要と判断される病院受診などは家族から依頼を受けた場合等は請け負っている。	コロナ禍にありほとんど外出支援ができない状況である。医療機関受診での外出を行っている。個別に中庭で散歩を支援し、外気浴に心がけている。中庭での花見やウッドデッキでの茶飲みを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金への執着がある場合は家族了承の元、決まった金額所持は認めている。基本事務所預かりとしている。現状としては外出が不可である為、お金を使用する機会は皆無である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話においては家族の都合を事前に聞き取りし、本人が掛けられる時間帯、相手の限定等に沿って要望の支援をしている。届いた手紙（年賀状など）は本人に渡し関係性が希薄でない事を伝え、事業所からも季節の手紙など字が書けなくとも何かしらの参加が出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光シートを貼ったり強すぎる刺激に苛まれる事がないよう工夫している。共用のトイレは大きく貼紙で知らせ、食堂テーブルにも利用者名を付記し着席の混乱がないようにしている。加湿器を入れ、定期的な換気・共同設備の消毒をまめに行い安心ある生活の支援をしている。また、季節の行事に因んだ貼紙、壁掛けを利用して空間彩色への工夫をしている。	窓ガラスに遮光シートを貼り、アロマ付き加湿器・エアコンで空調管理を行っている。ソファやテレビでゆっくりくつろげる。テーブルの座席も工夫している。畳部屋もあり、廊下にぬり絵の作品、フロアに桜の花のちぎり絵、折り紙の雛人形などの貼紙や壁掛けを採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各所にソファで寛げるように配置し、各人が好きな時に好きなだけ座れるようにし、クラシックがお好きな方が座っている際には音楽鑑賞が出来るよう取り入れている。</p>			
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の馴染みの深い家具（転倒や避難経路を妨げるような物を避けていただく）は持ち込み可としており居室が殺風景で寒々しい様相で無いように本人の意思も聞きながらカレンダーや貼紙等工夫をしている。</p>	<p>ベットは電動ベットや畳ベットがある。状態に応じて活用している。居室にトイレ・エアコン・クローゼット・洗面台を設置している。持ち込みのテレビ・使い慣れたテーブルと椅子・位牌、敬老の日や母の日に送られた飾り物・カレンダーがあり、居心地よく安心できる部屋になっている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>強要する事が無いよう声掛けには留意しながら出来る事、したい事、していただけるような事（自尊心をくすぐる様な）を探り、本人の住環境の整備に努めている。</p>			

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない